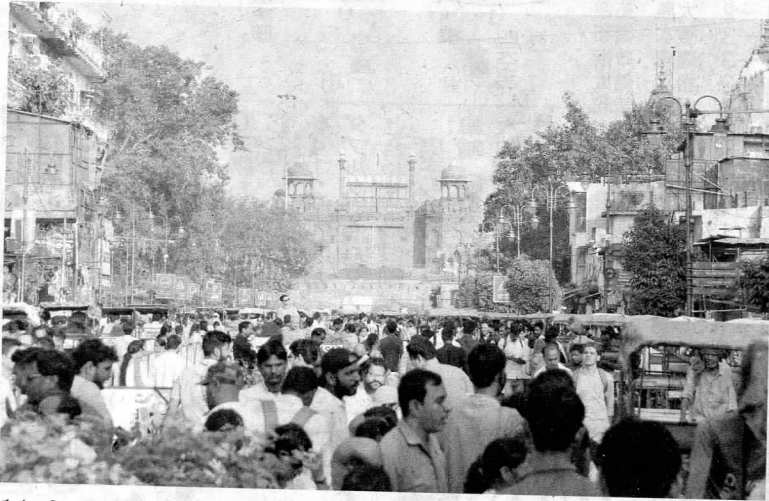


年内にも人口世界一に

インド 課題山積、高揚感なく

インドの首都ニューデリーにある世界文化遺産ラールキ
ラー周辺の路上を行き交う人々＝2022年10月（時事）



【ニューデリー時事】インドの人口は今年にも中国を上回り、世界最多になる見通しだ。国力の増大につながる一方、雇用対策や食料供給など課題も山積し、国内に高揚感はない。

浮上する抑制策 議論活発化

い。人口抑制策を巡り、宗教間の対立が深まる危険性もはらむ。

「中国に人口で勝つのは良いことではない」。北部ウッタールプラデシュ州ガジアバードで2人の子供を育てる女性（48）はそう話した。同州は約2億人が暮らし、インドで最も人口の多い州だ。

「人口世界一」を予想する国連によると、昨年時点のインドの人口は14億1200万人。出生率は年々下

がっているが、2050年には16億人を超える可能性がある。巨大な内需は経済成長をけん引。国際通貨基金（IMF）によれば、27年には名目GDP（国内総生産）で日本を抜き米国や中国に次ぎ、世界3位に浮上する見通し。

一方、国内には多数の無職の若者を抱える。政府は若者の職業訓練や雇用を吸収できる産業の育成に力を注いできた。しかし、施策が追い付

いているとはいえない。国際労働機関（ILO）によれば、21年の15〜24歳の失業率は約28%に上る。

国民を飢えから守る食料供給では、国民の約6割に相当する約8億1000万人に毎月1人当たり最大5キの穀物を低価格で配給する制度がある。20年3月末から22年末までは、新型コロナウイルス禍に見舞われた貧困層を支援するため食料の無償配給も行ったが、巨額の支出は国

家財政の重しとなる。

インドでは人口抑制策に関する議論も活発化。回国ではかつて男性を中心に強制的に不妊手術を受けさせたことが社会に遺恨を残し、直接的な抑制策は敬遠されてきた。

「家族を少なく保つことは愛国心の表れだ」。モディ首相は19年の独立記念日の演説でそう述べた。ウッタールプラデシュ州では21年、避妊具の普及や、2人より多い子供を持つ親は公的な福祉サービスを利用できないといった法律の草案を作成した。

こうした動きには出生率が比較的高いイスラム教徒の増加を抑えたい意図も透けて見える。ヒンズー至上主義を掲げる与党インド人民党（BJP）は、少数派のイスラム教徒に厳しい政策を取ってきた。地元報道によるとBJPの支持母体・民族奉仕団（RSS）トップのモハン・バグワト氏は昨年10月の演説で「宗教に基づく人口の不均衡は無視できない」と抑制策の必要性を訴えた。